

教えて!

富山 けいざい



景気循環ってなあに？

◆経済の良しあし示す 戦後2番目の回復継続

ブン子さんは北陸経済研究所（富山市）の楠智也主任研究員に聞きました。

Q－どんなことを意味するの。

A－経済動向全般の良しあしを「景気が良い」とか、「景気が悪い」と表現します。景気は循環的に良くなったり悪くなったりすると考えられています。その転換点（山や谷）は、政府が複数の経済指標を元に算出している「景気動向指数」から決めています。前回の景気の谷は2012年11月で、それから景気の回復が続いているとされています。



Q－5年以上続くのは長いと言えるのかしら。

A－戦後、最も長かった景気回復期は02年1月～08年2月の73カ月間です。それに次ぐのが1965年10月～1970年7月の57カ月間で「いざなぎ景気」と呼ばれていますが、現在の景気回復は2018年4月で65カ月になり、いざなぎ景気を超えています。非常に長期間、景気回復が続いているということです。

Q－ずっと景気が良いという感じはしないけど。

A－14年4月の消費税増税後、駆け込み需要の反動があり、消費や住宅建築が落ち込みました。また、その後の15年には中国経済の減速が大きな問題になりました。この時期、景気判断の根拠になる景気動向指数も低下しましたが、政府では分析の結果、景気後退ではなかったという結論を出しました。しかし、14～15年ごろの日本経済に停滞感があったのは確かです。その後の16年ごろからは再び景気は好調に転じました。

Q－富山の景気はどうなっているの。

A－全体としては、全国的な動向と同じく、富山でも景気回復は続いていると見ています。この5年間、県では製造業が好調で、特に医薬品や機械工業が回復をけん引しました。15年には北陸新幹線が開業しましたが、その効果として企業の進出や外国人観光客の増加などもありました。日本銀行が企業に年4回アンケート調査する「短観」の富山県の結果を見ると、13年6月以降はほとんどの調査で、「業況が良い」と答えた企業が「悪い」と答えた企業より多くなっています。